

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2771100902		
法人名	医療法人 徳洲会		
事業所名	グループホーム三田		
所在地	大阪府岸和田市三田町134番地		
自己評価作成日	令和元年8月1日	評価結果市町村受理日	令和元年9月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階		
訪問調査日	令和元年8月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>当施設は介護老人保健施設、岸和田徳洲苑に併設し、医療・防災・緊急時の連携を図り協力体制が出来ている。</p> <p>平成24年11月より訪問看護ステーションファミリーユと提携し看護師による24時間体制を確保、相談・助言・訪問・</p> <p>看取り等の対応を行い、更なる協力体制を実施。周囲には古墳があり緑豊かな環境で、近隣には小学校・幼稚園・住宅地が隣接し、地域交流があります。建物は天井が高く開放的で明るく、各居室にはトイレ・洗面所を設置、プライバシーに配慮し、入浴は週3回を確保している。フロアには入居者様と職員と一緒に作成した、四季折々の作品を展示し、併設の岸和田徳洲苑の催しに参加し、岸和田徳洲苑</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は、だんじりで有名な岸和田市にあり、近隣には、国の史跡に指定されている摩湯山古墳がある。事業所は、併設の介護老人保健施設の少し奥まった場所の、緑豊かな環境の中に建てられていて、平屋建てで、天井が高く開放感があり、明るい雰囲気になっている。1ユニット9名で、現在の利用者はすべて女性である。利用者は職員と一緒に老人保健施設に行き来し、馴染みの人との関係性を継続しながら、また地域の人と交流しながら生活している。事業主体が医療法人徳洲会で、訪問看護ステーションと連携しながら積極的に看取りを行い、家族からも大変喜ばれている。昨年に続き今年度も、家族の協力のもと、日本認知症グループホーム全国大会で看取りの事例発表を行う予定になっているほどである。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 ○ 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている ○ 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が ○ 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念と事業所独自の理念がある。職員の名札裏に携帯し、共有することで意識づけ実践している。	法人理念とは別に事業所の理念があり、「地域住民との交流を支援する。安心と尊厳ある生活を支援する。日常生活能力の維持・向上に努める。楽しみ生きがいのある生活を提供する」の4項目で、それぞれを実践するための具体策が分かりやすく記されている。職員は常に理念が共有できるよう、名札の中に理念の書かれた用紙を携帯している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	定期的に地域ボランティアの訪問があり、顔なじみの関係が出来ている。地域の保育所・幼稚園・小学校・中学校の児童との交流の機会がある。	傾聴ボランティア、紙芝居、フラメンコ、泉州昔語り、詩吟等、月2回地域のボランティアの訪問がある。9月には敬老会のお祝いに近くの小学校児童が訪問し、10月には岸和田のたんじり見学で地域の人との交流がある。併設の老人保健施設と協力して、介護講座を年2回開催し、地域に情報を発信している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所独自の取り組みはしていないが、併設施設の岸和田徳洲苑が介護講座委員会を設立し、地域に向けた介護講座や高齢者への講演を行っており、協力体制を築ける様取り組んでいる。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、定期的で開催し、サービス状況や行事報告など行っている。各委員の職印からの情報やアドバイスを受け、サービスの向上に取り組んでいる。	偶数月の第3木曜日に、地域包括支援センター職員や地域代表者、家族、事業所関係者で運営推進会議を開催している。会議の中で、行事に参加したい家族がいることを知り、現地集合にして、参加できた家族から喜ばれたという事例がある。会議の議事録は、面会に来た家族には直接渡し、遠方のため訪問頻度の少ない家族には郵送している。	会議の参加メンバーが、時にはほとんどが事業所の関係者になることがある。地域代表として最も重要な町内会代表(町内会に限定せず)、介護相談員等、より多くの外部の人の出席を根気強く要請することを期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市職員との連携・情報交換・協力体勢を築ける様に取り組んでいる。市主催のフォーラムや市の関わる事業所連絡会主催の研修に参加し、認知症ケアの向上に取り組んでいる。	生活保護受給者の受け入れを行っており、定期的に市の職員の訪問がある。2ヶ月に1回、介護相談員の受け入れも行っている。介護保険制度のことで分からない時には、積極的に市役所に相談に行くなどして、市との連携を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	併設施設での内部研修で制度の理解と拘束ゼロを周知徹底し実践している。玄関は日中鍵をかけていないが、夜間は安全確保・防犯のため施錠している。	年2回、併設の老人保健施設と合同で身体拘束について研修を行っている。同じく合同で、身体拘束適正化委員会を毎月開催している。夜間は安全のため玄関を施錠しているが、日中は施錠していない。屋外に出ようとする利用者はおらず、ベッドのセンサーマットの使用もしていない。	身体拘束適正化委員会は、併設の老人保健施設が主となって毎月開催されているが、事業所は時間がある時に参加することになっており、参加できない時もある。老人保健施設の助言を受けながら、事業所独自で委員会を開催し、身体拘束をしないケアの実践に取り組むことが望まれる。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修や併設施設での内部研修で定期的に研修を行っている。職員同士が話し合い・助け合い・注意することでストレスを溜めないようにし、虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	併設施設での内部研修で学ぶ機会があり、全職員が周知出来るように取り組んでいる。相談があれば、併設施設の相談員と共に、窓口を紹介するなどの対応は行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、重要事項説明書・利用契約書等の説明を行い、家族様からの不安や意向を聞き、家族様の理解、納得の上契約・署名・捺印を交わしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見・要望は意見箱を玄関に設置している。年1回の満足度アンケート調査も行っているが、面会時には家族からの意向を聞き取り、運営に反映させている。	家族会が設立されており、年1回8名位の家族が参加して開催している。事業所は家族に満足度アンケートを郵送しているが、すべての家族から聞き取れるわけではないため、家族の訪問時にコミュニケーションを取り、意見や要望を十分に聞き取るようにしている。家族から出た意見は、運営に反映させている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営に関しての意見・要望は気軽に相談できる関係になっている。定期的にグループホーム会議を開催し、意見交換を行っている。	価値観や考え方の相違から、一時期大量の退職者があったが、最近は職員の異動もなく落ち着いて来ている。管理者は個人面談を行って、職員の相談に乗ったり、提案や意見を聞く機会を設けている。管理者は、職員から出された運営に関する提案について、改善できることは改善するように努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	必要と認める超過勤務に対し、処遇への反映や、職員の意欲・向上心が損なわれない様に、業務調整や環境を整えて配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	併設施設での内部研修や外部研修及び同法人の研修に受講ができ、職員に意識向上の環境が整っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	日本認知症グループホーム協会・岸和田市事業所連絡会に入会している。岸和田市グループホーム情報交換会に参加、ネットワークづくりと情報交換の場がある。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談の時間を多く確保し、不安や相談事・意向を聞き取り、入居後も各職員が、利用者が早く安心出来る環境づくりに配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者の情報収集を細かく聞き取り、家族の不安・想い・意向を理解しながら、良い関係が築ける様に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者の基本情報・家族様からの情報を客観的に判断し、サービスの優先順位を把握し対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の暮らしの中で、利用者の個性や意向を知り、他の職員と共有することで、本人との関係性を高めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との面会時間を大切にし、面会の機会を増やして頂けるよう、行事への参加の機会がある。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近隣の知人や友人が面会に来られた場合は、家族に、再度面会に来ていただけるように報告している。	利用者は、職員に手伝ってもらって年賀状や暑中見舞いを書き、家族や知人に郵送している。併設の老人保健施設を利用している人に会いに行くなど、本人がこれまで大切にしてきた関係性が途切れないように支援している。家族の面会時に、近所の人と一緒に来てくれることもある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	親しい関係性が確立されているが、時にストレスを感じる利用者に対し、職員が関わり対応する事で友好的関係を築けるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設への窓口紹介や必要書類作成、併設施設の相談員と連携し対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の介護の中で、利用者の話を傾聴し、行動を把握し思いをくみ取る様努めている。	自分から意向や希望を伝えることができる利用者はいるが、伝えることができない利用者には、昼食後のゆっくりした時間や、入浴時のリラックスした時にスキンシップを図りながら、意向を聞き取るように努めている。利用者の行動や仕草から推察することもあるが、得られた情報は職員間で共有し、一人ひとりの希望に沿った生活ができるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	契約時、利用者や家族よりアセスメントし、日々の介護の中でも情報収集に努め、できる事への支援・その人らしい暮らしが出来るように支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の残存機能を活かし、機能が高められるよう支援。段階ごとに見守り、心身の状態を把握し取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	目標はあまり高く設定せず、無理なく出来る範囲の介護計画を策定している。定期的なカンファレンスを行い、現状に合ったケアに取り組んでいる。	介護計画は利用者、家族、職員のほか、協力医の意見も参考にしながら作成している。モニタリングは毎月行っているが、利用者一人ひとりのチェック表を作成し、毎日ケアプランに沿った支援ができていないか確認している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	随時、アセスメントとモニタリングを繰り返し、状態変化や早期発見に努めている。介護記録や管理日誌で情報共有と状態把握に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の状態変化や家族の状況に応じて、柔軟な対応を心掛けている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	理容・ボランティア・納入業者・市介護相談員など、地域の人々とコミュニケーションを図り支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	連携医院の医師の往診が週1～2回ある。受診時は家族の意向を聞き取り、話し合いや協力のもと、適切な治療が受けられるように支援している。救急時は職員が同行支援も行っている。	かかりつけ医は、本人・家族の意向を尊重して決めており、現在は全員が協力医院の医師の往診を受けている。内科は週1～2回、歯科は2週間に1回の往診で、適切な医療支援を行っている。専門科は家族の同行が原則だが、職員の代行が多い。看護師は週2回訪問し、健康管理と緊急時を含めた医療相談に対応している。併設の看護師長の週2回の訪問が、利用者、職員には心強い。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週2回訪問看護師が来所し、健康管理への支援している。利用者の状態変化には、申し送り・カルテ・管理日誌へ記録、状態報告し、急変時は早急に対応出来るよう連携を密にしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院が必要な場合は、介護サマリーを情報提供している。併設施設の介相談員が協力体制にあり、医療機関の相談員との情報交換、相談事に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に、重度化した場合や、終末期に向けた意識調査を行っている。状態変化により医療行為が必要となった場合や、継続が困難な状態変化があれば、家族と相談の上、併設施設の相談員が窓口となり、他のサービスが受けられるよう支援している。	契約時に「重度化や終末期に向けた事業所の対応指針」を説明し、同意書を交わしている。利用者が重度化した場合、主治医が状態を家族に説明して意向を再確認し、意向に沿う支援を行っている。看取りの希望があれば、家族と事業所、主治医、看護師が話し合っ、本人にとって望ましい最期を迎えられるよう、一体となって取り組んでいる。直近7年で8件の看取り支援がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	異常の早期発見が出来るよう、内部研修で急変時の対応を学び、実践に取り組んでいる。急変時や事故発生時は併設施設の看護師と協力体制が出来ている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	自衛消防訓練は年2回、日勤帯・夜勤帯を想定し、併設施設の職員も参加し、実践できるよう取り組んでいる。	年2回、併設の施設と合同で、昼夜を想定した消防避難訓練を行っている。そのほかに事業所独自で3ヶ月に1回、地震、風水害等を想定した訓練や設備の点検を行っている。特に夜勤帯の災害対応訓練には、事前準備、予行演習迄行うほど真剣に取り組んでいる。水や米、カップめん、缶詰、介護用品、カセットコンロ等を備蓄している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報・プライバシー保護・接遇については、職員の意識改革に取り組んでいる。今年度は「相手の立場に立った気配りで、安心出来る施設に」を年間目標に掲げ、サービスの質の向上に取り組んでいる。	接遇委員会を中心に、研修、勉強会を年2～3回開催し、利用者一人ひとりの尊重とプライバシーの確保等の徹底に取り組んでいる。利用者を人生の先輩として敬い、特に慣れによる軽率な言葉遣いや対応をしないよう、今年度の接遇目標「相手の立場に立った気配りで安心できる施設に」すべく、全職員が取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話・寄り添う事で、コミュニケーションを図り、利用者の思いをくみ取り、介護側の押し付けにならないように、個人の意思を尊重し満足して頂けるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の流れの中で、レクリエーションや行事への参加は利用者の意思に任せた支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類の補充などは、家族と外出時に購入されたりしている。月1回の訪問理容で、整髪の支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	毎週日曜日に献立会議を開催し、嗜好に沿って季節の食材を取り入れて献立を決めている。一緒にテーブルを囲み、食事を楽しんでいる。	毎週日曜日に利用者と職員とで、翌週皆が食べたいメニューを決めている。できるだけ季節の食材を、生協と近くの店から取り寄せ、専任調理師1名と職員が交代で手作りして、温かく美味しい食事を提供している。地域の人から差し入れの取り立ての季節の野菜や果物が、食事を賑わすこともある。職員も利用者を介助しながら一緒に楽しく食事している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に合わせた形態・量を提供している。毎日の摂取量、水分量をチェックし把握している。体重増加に注意し、栄養バランスに配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアと歯磨きを支援している。毎週、水曜日と木曜日は歯科衛生士による口腔ケア往診・歯の治療が出来る歯科医院と連携している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックを行い、個々の排泄パターンの把握に努め、利用者の行動・言動・しぐさなどでサインを察知し、定期的な誘導を行っている。	排泄チェック表で利用者個々の排泄パターンを把握し、少し余裕を持って声かけ、誘導して、トイレでの排泄と自立に向けた支援を行っている。根気強い声かけ、誘導で、オムツから紙パンツへ改善できた人が2名いる。現在、尿意、便意を自覚し、自分からトイレで排泄している完全自立者が、利用者のほぼ半数の4名いるのはその成果である。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックを行い、状態観察している。乳製品・植物繊維等を取り入れた食事メニューで便秘予防を支援。便秘症の方は医師に相談し随時対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3回の入浴を目安とし、希望があればいつでも入浴出来る体制である。一人入浴を支援し、プライバシーへの配慮も行っている。利用者の希望や状態でシャワー浴・足浴など、柔軟に対応している。	日曜日を除く隔日午前中、週3回を目安に入浴を支援しているが、利用者の希望と体調により柔軟に対応している。浴槽は重度者を2方向から介助でき、洗い場も広いので、仲の良い利用者同士が歌いながら長風呂を楽しむこともある。菖蒲湯や冬至のゆず湯を楽しむ支援も行っている。入浴を嫌がる人は無理強いせず、時間や人を替えて対応している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活リズムを把握し、利用者の意思で休息・臥床行っている。居室の環境整備に気を配り、安眠出来るよう努めている。又、居室でのテレビ鑑賞も可能である。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師の指示のもと職員が管理し、服用時には名前・量・時間などを確認し介助している。処方箋は個々のファイルに纏め、確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の得意分野で役割を引き出し、生活に活性化を与えられるよう支援している。職員は感謝の言葉を伝えるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣へ散歩など支援している。年間行事で初詣・花見・遠足などで外出し、外食など支援している。又、家族協力のもと、買い物やドライブへ出かけられている。	併設する法人の敷地が極めて広く、植栽と花壇も多く、周囲に古墳の鬱蒼とした森や堀、ため池、季節の田畑の様子が眺められるので、敷地内の散歩を日常的に行っている。暑い季節、寒い季節も、事業所の周りで涼んだり日向ぼっこして外気に触れ、五感を刺激しながら季節の移ろいを楽しんでいる。気候と天気の良い日は、近隣の散歩をしている。年間行事を組み、家族の協力を得て遠出も行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人預り金は、併設施設の事務所で管理している。個人的に希望され、家族と相談し目的を持って所持されている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ホーム内には公衆電話を設置している。年賀状や暑中見舞いなど、手書きで書いて頂くなど支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は常に清潔を保ち、快適に過ごして頂けるよう取り組んでいる。フロアには、利用者で作成した季節を感じる作品を飾っている。	居間兼食堂は42.5㎡と広く、高い天窓からの採光で明るく開放感がある。玄関や廊下、浴室、トイレ等は掃除が行き届き、清潔に保たれている。壁面には利用者で作った季節の作品が飾られている。テーブルの配置と席は、利用者の希望や状態により適宜変えている。広いフロアには一人で過ごせるようソファを配置して、居心地良く過ごす工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	1人で過ごせる空間づくりに配慮し、玄関前にも椅子を配置し、外の景色を眺めたり、ソファを置いて過ごせるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には家族に説明し、使い慣れた筆筒や椅子などで、落ち着いた環境づくりが行えるよう配慮している。	12、8㎡と広い居室には、ベッド、クローゼット、トイレ、洗面台、エアコン、防炎カーテン等が設置されている。利用者は、使い慣れたテレビ、椅子等の家具や、家族の写真、人形等思い出の品物を持ち込んで、これまでと変わらない落ち着いた生活が続けられるように支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーで、フロア・居室・風呂場など手すりを設置し、安全に移動出来るよう環境整備に取り組んでいる。		